

高校 3 年生
1 学期中間考查

古典対策

十八史略「完璧而帰」

名前



◆◆書き下し◆◆

趙の恵文王、嘗（かつ）て楚の和氏の璧を得たり。秦の昭王、十五城を以つて之に易へんことを請ふ。与へざらんと欲すれば、秦の強きを畏れ、与へんと欲すれば、欺かるるを恐る。藺相如（りんしゃうじよ）曰はく、「願はくは、璧を奉じて往かん。城入らずんば、則ち臣請ふ璧を完（まっ）と）うして帰らん。」と。既に至る。秦王城を償ふに意無し。相如乃ち給きて璧を取り、怒髪冠を指す。柱下に卻立（きやくりつ）して曰はく、「臣が頭は璧と俱に碎けん」と。従者をして璧を懷（いだ）きて間行して先づ帰らしめ、身は命を秦に待つ。秦の昭王、賢として之を帰らしむ。

◆◆通釈◆◆

趙の恵文王が、楚の宝であつた『和氏の璧』を手に入れました。

秦の昭王は、和氏の璧を手にしたいと思い、15の城と和氏の璧を交

換してくれと申し出てきました。恵文王は、秦にこの宝をあげないと言えど秦が怒って攻めてくるだろうと恐れ、交換に応じればだまされるだろうと恐れていました。すると藺相如が、和氏の璧をもって秦に行きましようと言いました。（藺相如は）「城が手に入らなければ、和氏の璧を完全な状態で持ち帰ります」と言つて、秦に向かいました。秦の王には、城を与える意志はありませんでした。秦の王に一度は献上した和氏の璧を、藺相如はうまくだまして取り返し、髪の毛が逆立つて冠から出るほど怒りを表にして、（交渉していた）部屋の下に立つて言いました。「（城をいただけないのであれば）私の頭と一緒に、和氏の璧を粉々にします」と。捕らえられた藺相如は、密かに従者の懷に和氏の璧を忍ばせて先に返し、自分は秦の王の判断が下るのを待ちました。秦の昭王は、賢い者だと言つて、藺相如を趙の国に帰らせたとのことです。

次の文章を読んであとの問いに答えよ。

趙^ノ 惠文王、**A** 嘗^{タリ} 得^ニ 楚^ノ 和氏璧^ヲ。秦^ノ 昭王、**①** 請^ニ 以^テ 十^ニ 五^ニ

城^ヲ 易^ス 之^ヲ。欲^{スレバ} 不^{ラント} 与^ヘ、畏^レ 秦^ノ 強^{キヲ}、欲^{スレバ} 与^{ヘント}、恐^ル **B** 欺^カ。藺相如

願^フ 二 奉^{ジテ} 璧^ヲ 往^{コカトシテ}。曰^{ハク} 「城^ヲ 不^{ンバ} 入^ラ、**C** 則^ニ 臣^ハ 請^フ、完^{ウシテ} 璧^ヲ 而^{シテ} 帰^{ラント}。」 既^{ニシテ}

至^ル。秦^ノ 王 無^シ 意^シ 償^{フニ} 城^ヲ。相^ノ 如 乃^チ **D** 給^ニ 取^リ 璧^ヲ、怒^リ 髮^ヲ 指^シ 冠^ヲ、

② 卻^{シテ} 立^{シテ} 柱^ニ 下^ニ 曰^{ハク}、**③** 臣^ノ 頭^{かうべ} 与^レ 璧^ヲ 俱^ニ 碎^{ケント}。**E** 二 從^{ヨシテ} 者^{キテ} 懷^{キテ} 璧^ヲ 間^ニ

行^{シテ} 先^ツ 帰^ラ、身^ハ 待^ツ 二 命^ヲ 於^ニ 秦^ノ。秦^ノ 昭王 **④** 賢^{トシテ} 而^{シテ} 帰^ス 之^ヲ。

問一 空欄 B・E に適する漢字を選択肢より選べ。

B 【 】 E 【 】

選択肢	猶	況	不	見	豈	遣
-----	---	---	---	---	---	---

問二 二重傍線 A・C・D の読み方を書け。ただし、送り仮名も補って書くこと。現代仮名遣い・歴史的仮名遣いは問わない。

A 「嘗」 【 】
C 「則」 【 】
D 「給」 【 】

問三 (1) 傍線①に、書き下し文を参考にして、返り点と送り仮名を書き加えよ。

【書き下し】十五城を以て之に易へんことを請ふ。

請 以 十 五 城 易 之

(2) 「之」の内容と主語を明らかにして、傍線①を現代語訳せよ。

【 】

問四 傍線②「卻立」の意味を現代語で答えよ。

()

問五 傍線③を書き下し文に改め、すべてひらがなで答えよ。現代仮名遣い・歴史的仮名遣いは問わない。句点は不要である。

[illegible]

問六 傍線④「賢而」とあるが、昭王は藺相如のどのような点を認めたのか。四十字以内の現代語で説明せよ。

[illegible]

◆◆書き下し◆◆

趙の恵文王、嘗（かつ）て楚の和氏の璧を得たり。秦の昭王、十五城を以つて之に易へんことを請ふ。与へざらんと欲すれば、秦の強きを畏れ、与へんと欲すれば、欺かるるを恐る。藺相如（りんしゃうじよ）曰はく、「願はくは、璧を奉じて往かん。城入らずんば、則ち臣請ふ璧を完（まっ）と）うして帰らん。」と。既に至る。秦王城を償ふに意無し。相如乃ち給きて璧を取り、怒髪冠を指す。柱下に卻立（きやくりつ）して曰はく、「臣が頭は璧と俱に碎けん」と。従者をして璧を懷（いだ）きて間行して先づ帰らしめ、身は命を秦に待つ。秦の昭王、賢として之を帰らしむ。

◆◆通釈◆◆

趙の恵文王が、楚の宝であつた『和氏の璧』を手に入れました。

秦の昭王は、和氏の璧を手にしたいと思い、15の城と和氏の璧を交

換してくれと申し出てきました。恵文王は、秦にこの宝をあげないと言えど秦が怒って攻めてくるだろうと恐れ、交換に応じればだまされるだろうと恐れていました。すると藺相如が、和氏の璧をもって秦に行きましようと言いました。（藺相如は）「城が手に入らなければ、和氏の璧を完全な状態で持ち帰ります」と言つて、秦に向かいました。秦の王には、城を与える意志はありませんでした。秦の王に一度は献上した和氏の璧を、藺相如はうまくだまして取り返し、髪の毛が逆立つて冠から出るほど怒りを表にして、（交渉していた）部屋の下に立つて言いました。「（城をいただけないのであれば）私の頭と一緒に、和氏の璧を粉々にします」と。捕らえられた藺相如は、密かに従者の懷に和氏の璧を忍ばせて先に返し、自分は秦の王の判断が下るのを待ちました。秦の昭王は、賢い者だと言つて、藺相如を趙の国に帰らせたとのことです。

次の文章を読んであとの問いに答えよ。

趙^ノ 惠文王、**A** 嘗^{タリ} 得^ニ 楚^ノ 和氏璧^ヲ。秦^ノ 昭王、**①** 請^ニ 以^テ 十^ニ 五^ニ

城^ヲ 易^ス 之^ヲ。欲^{スレバ} 不^{ラント} 与^ヘ、畏^レ 秦^ノ 強^{キヲ}、欲^{スレバ} 与^{ヘント}、恐^ル **B** 欺^カ。藺相如

願^フ 二 奉^{ジテ} 璧^ヲ 往^{コカトシテ}。曰^{ハク} 「城^ヲ 不^{ンバ} 入^ラ、**C** 則^ニ 臣^ハ 請^フ、完^{ウシテ} 璧^ヲ 而^{シテ} 帰^{ラント}。」 既^{ニシテ}

至^ル。秦^ノ 王 無^シ 意^シ 償^{フニ} 城^ヲ。相^ノ 如 乃^チ **D** 給^ニ 取^リ 璧^ヲ、怒^リ 髮^ヲ 指^シ 冠^ヲ、

② 卻^{シテ} 立^{シテ} 柱^ニ 下^ニ 曰^{ハク}、「**③** 臣^ノ 頭^{かうべ} 与^レ 璧^ヲ 俱^ニ 碎^{ケント}。」 **E** 二 從^{ヨシテ} 者^{キテ} 懷^{キテ} 璧^ヲ 間^ニ

行^{シテ} 先^ツ 帰^ラ、身^ハ 待^ツ 二 命^ヲ 於^ニ 秦^ノ。秦^ノ 昭王 **④** 賢^{トシテ} 而^{シテ} 帰^ス 之^ヲ。

問一 空欄 B・E に適する漢字を選択肢より選べ。

B 【見】 E 【遣】

選択肢 猶 況 不 見 豈 遣

問二 二重傍線 A・C・D の読み方を書け。ただし、送り仮名も補って書くこと。現代仮名遣い・歴史的仮名遣いは問わない。

A 「嘗」 【かつて】

C 「則」 【すなわち】

D 「給」 【あざむきて】

問三 (1) 傍線①に、書き下し文を参考にして、返り点と送り仮名を書き加えよ。

【書き下し】十五城を以て之に易へんことを請ふ。

請^フ下^テ以^ニ十^五城^ヲ一^{コヘ}易^ト之^ニ

(2) 「之」の内容と主語を明らかにして、傍線①を現代語訳せよ。

【秦の昭王は、十五の城と(和氏の)璧を交換してくれと申し出た。】

問四 傍線②「卻立」の意味を現代語で答えよ。

後ずさりして立つ

問五 傍線③を書き下し文に改め、すべてひらがなで答えよ。現代仮名遣い・歴史的仮名遣いは問わない。句点は不要である。

し
ん
の
か
う
べ
へ
き
と
と
も
に
く
だ
け
ん
と

問六 傍線④「賢而」とあるが、昭王は藺相如のどのような点を認めたのか。四十字以内の現代語で説明せよ。

[illegible]

城が手に入らないことを見抜き、璧を砕くと脅すことで、昭王を見事欺いた点。（三十六字）